

令和3年度第1回「地域フォーラム」

三郷町
上牧町
王寺町
河合町

土地利用のあり方と のまちづくり

令和4年1月16日(日)
上牧町文化センター

奈良県知事 荒井正吾



1. 奈良県の土地利用の実態から見た経済社会の状況

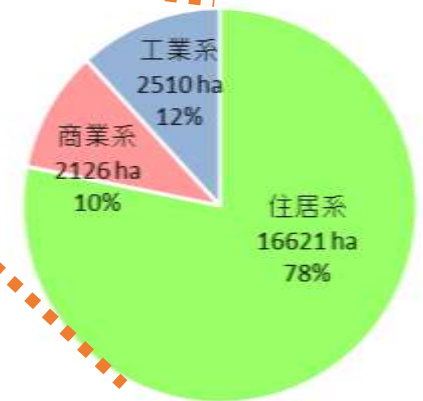
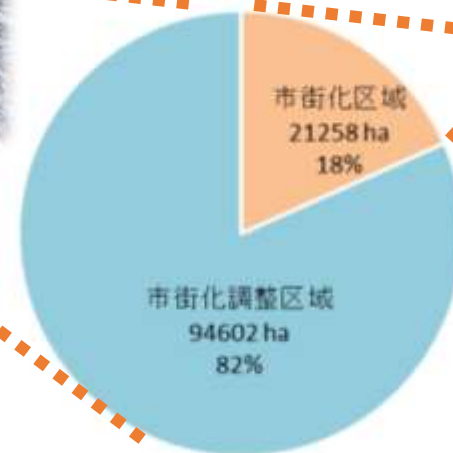
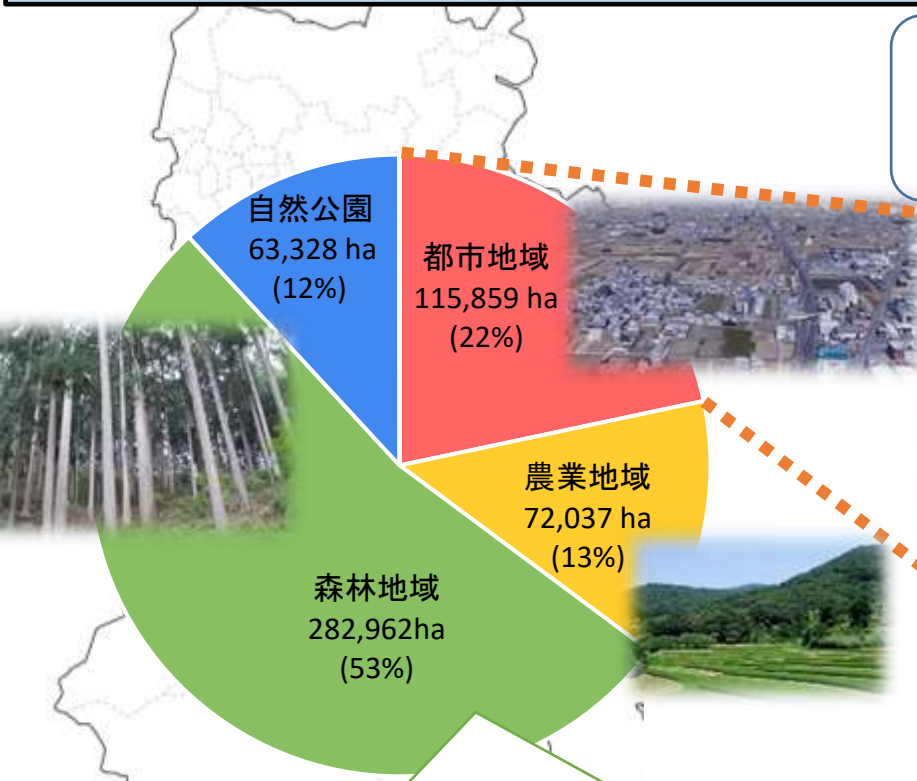
- ・奈良県の都市地域・農業地域（比較的生産活動が容易な土地）の割合は全国を下回っている水準（全国47%、奈良県35%）
- ・都市地域は大和平野に集中（県土の3割の地域に人口の9割が集中）
- ・大阪のベッドタウンとして発展してきたため、その用途地域の大部分（約8割）を住居系が占めている。
- ・そのため商業系・工業系の土地利用が低く、雇用と消費を他地域に依存している。

・ 県外就業率 28.8%（全国2位）

（出典：奈良県のすがた2020）

・ 県民1人当たりの地方消費税収入額 31,890円（全国47位）

（出典：『地方税に関する参考計数資料』令和3年総務省自治税務局）



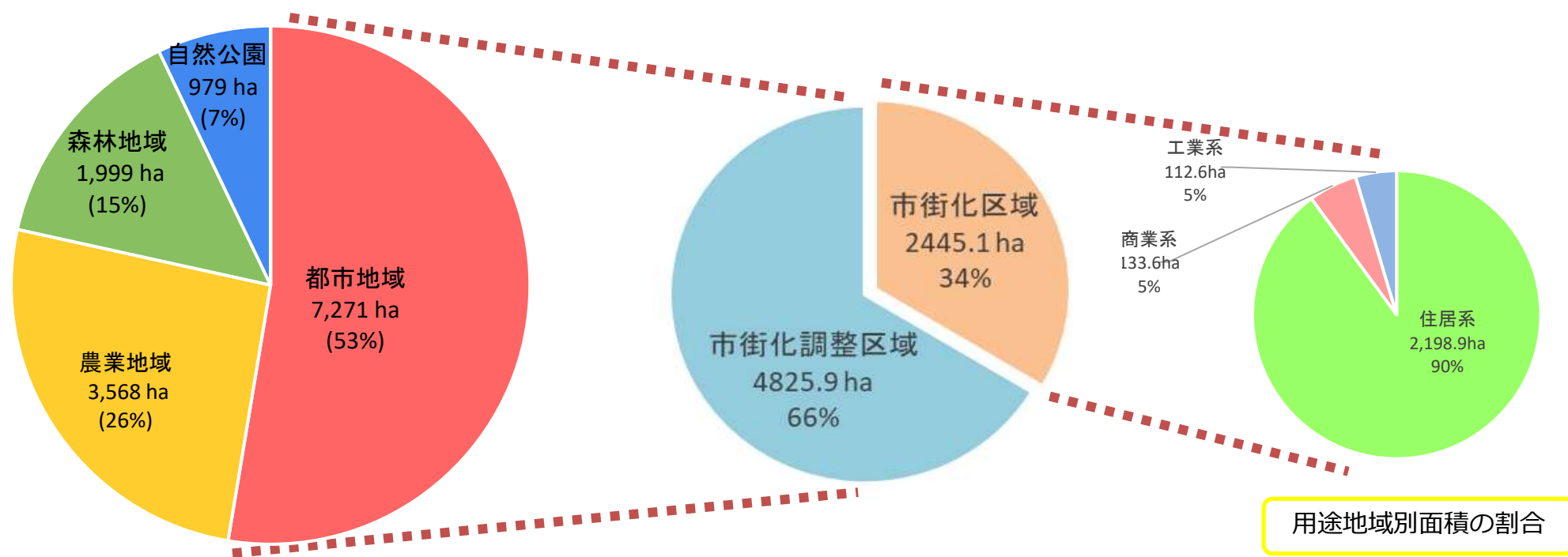
用途地域別面積の割合

※土地利用区分には重複地あり

例 大和平野部における都市地域と農業地域
中山間部における農業地域と森林地域

西和7町の土地利用の実態

- ・ 鉄道による大阪への通勤アクセスが良く、大阪のベッドタウンとして発展してきたため、市街化区域において、住居系の土地利用が極めて高い。
- ・ 農地が多く残っており、住宅地域との共生が図られている。
- ・ 7町の交通の拠点である王寺駅周辺地域は、用途地域としては商業地域であるが、商業系の土地利用が進んでいない。



①奈良県と土地利用区分（都市地域、農業地域、森林地域）の構成割合が類似している地域との県内総生産の比較

土地利用基本計画の5地域指定状況

	五地域					
	都市地域 (%)	用途地域の割合 ※1			農業地域 (%)	森林地域等 (%) ※2
		住居系	工業系	商業系		
全国	17.5%	61%	25%	14%	29.8%	52.8%
群馬県	19.4%	59%	28%	13%	30.7%	49.9%
石川県	15.2%	50%	31%	19%	32.4%	52.4%
福井県	17.1%	54%	36%	10%	16.3%	66.5%
長野県	16.4%	69%	19%	12%	22.4%	61.2%
滋賀県	29.8%	57%	29%	15%	16.3%	53.8%
奈良県	21.3%	78%	12%	10%	14.1%	64.6%
和歌山県	13.6%	61%	23%	16%	25.6%	60.8%

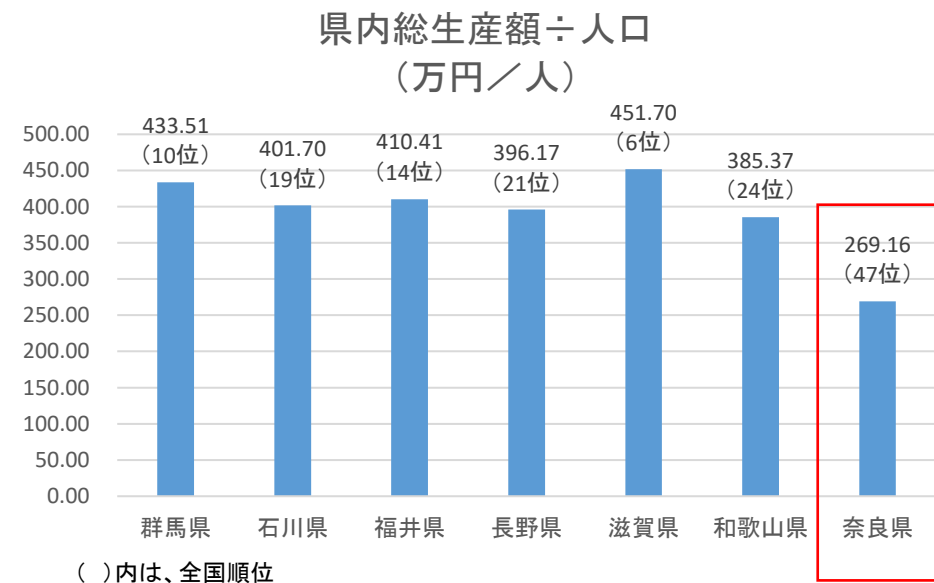
都市地域と森林地域の割合が比較的似ている地域及び近隣県

出典：R2年 国土交通省不動産・建設経済局調べ

※1のみH30年都市計画年報より出典

※2 森林地域、自然公園地域、自然保全地域を合算

人口あたりの県内総生産額



※人口あたりの生産額が他地域に比べて低い。

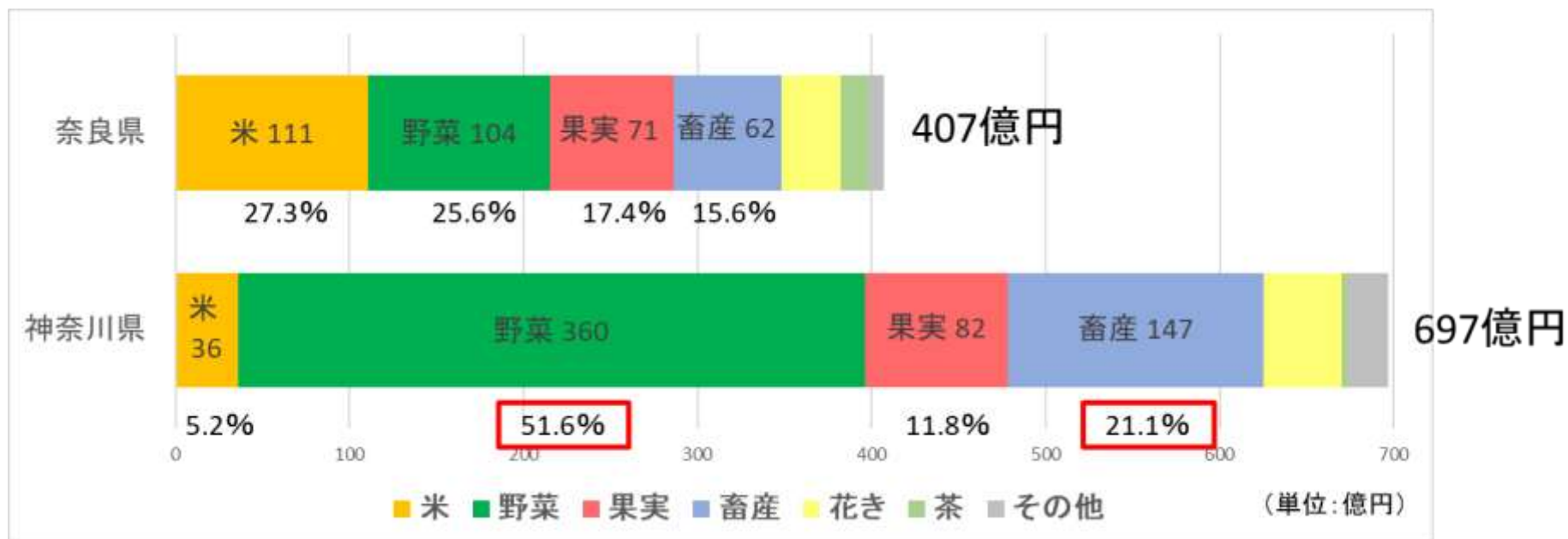
出典：H27年 国勢調査
H28年度 内閣府県民経済計算

- ・生産性の高い地域は、用途地域に占める工業系用途地域の割合が高く、生産性を引き上げているものと思われる
- ・奈良県では、用途地域に占める工業系・商業系用途地域の割合が小さい

②奈良県の農業地域をめぐる現状

農業の生産性

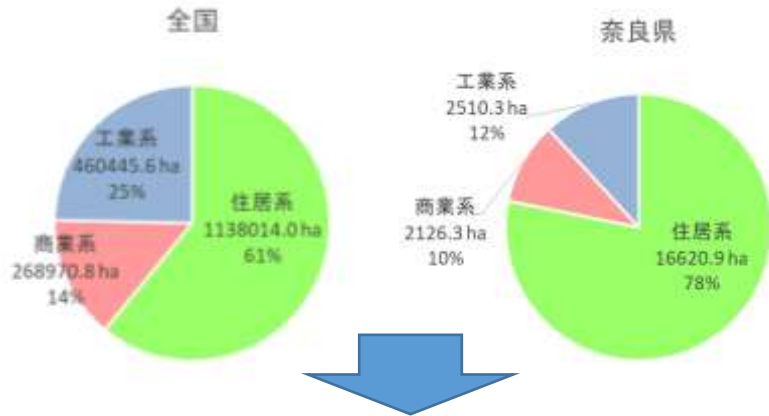
- 本県の農業産出額は、都道府県の下から3番目(下は東京都、大阪府のみ)で407億円。(H30生産農業所得統計)
- 神奈川県は耕地面積は本県と同程度にもかかわらず、農業産出額は697億円と本県の約1.7倍。
(耕地面積：奈良県20,000ha、神奈川県18,400ha ※R2作物統計調査)
- 同じ都市近郊農業だが、神奈川県は、野菜、畜産の比重が大きい。



2. 奈良県の土地利用の課題と解決の方向

① 市街化区域の用途地域が住居地域に偏り過ぎて経済が弱い

- 用途地域の約78%（全国平均61%）を住宅が占めている



工業系・商業系の土地利用を増やす必要がある

1. 県内総生産額(1人当たりの額)が低い (全国47位)
(奈良県2,692千円 全国4,332千円)
2. 製造品出荷額等(従業員1人当たりの額)が低い
(全国33位)
(奈良県29,226千円 全国39,912千円)
3. 小売り年間商品販売額(1人当たりの額)が低い
(全国47位)
(奈良県915千円 全国1,142千円)

(出典：奈良県のすがた2020 R1年100指標から見た奈良県勢 等)

② 住宅地には住宅しかなく生活に不便



- 生活に不便な住宅ばかりで、生活利便施設（コンビニ、薬局等）が近くに無い
- 道路が狭く、バス路線まで遠い
- 歩いて暮らしていく「まち」となっている

人口減少と高齢化等が進んでも、高齢者が住みやすい「まち」への「リニューアル」が必要。

③ 工業系地域等の住工混在化が進み工場が建ちにくく、住環境も悪くなっている

- ・工業系用途地域においてこれまで工場誘致を積極的にすすめる箇所が少なかったため、バラ建ちが多い



住工混在地域を住み易く、工場立地し易くする「再ゾーニング」が必要

※近年、京奈和自動車道などの道路整備等が進んだため他府県からの企業立地の問い合わせは増加傾向



④ 残っている農地が虫食い状態となっているところがある

⑤ 個別の開発行為優先でゾーニングプラン（地域の詳細な土地利用計画）が少ない



- ・農地の中に虫食いの開発がみられる（都市計画法第34条第11号による開発）
- ・IC隣接地等のポテンシャルの高い地域でありながら、有効利用されていない土地がみられる



整序ある土地利用に向けた、地域ごとの特性に応じたゾーニングプランを検討する必要がある

⑥ 耕作放棄地が多い

○耕作の放棄

- ・耕作放棄地率は21.2%と近畿で最も高く、全国でもワースト10位。

単位:%

奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	全国平均	全国順位
21.2	6.2	13.4	16.5	12.0	16.8	12.1	38位

(西和7町：16.7%)

※H27 農林業センサス

- ・後継者がいないから、という嘆きがあるが、農地を貸し出すことを極端に嫌がる。

○耕作放棄地重課制度の非活用

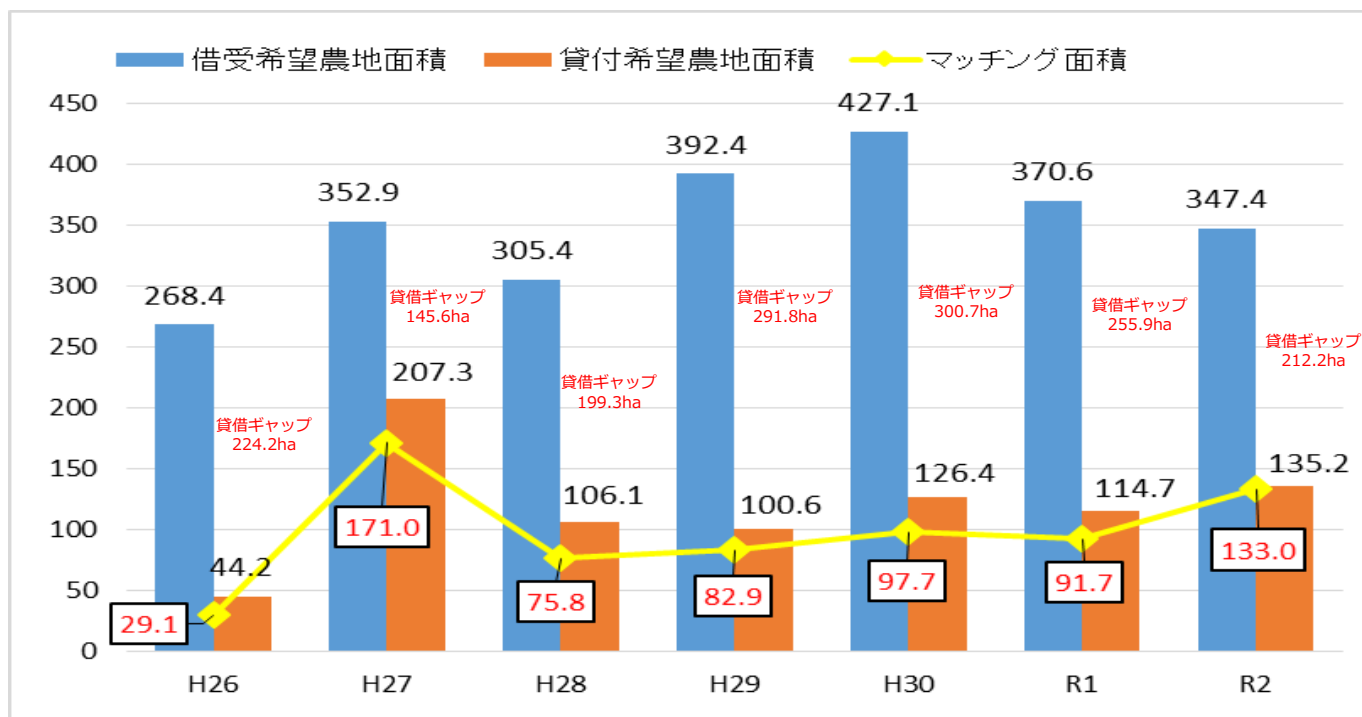
- ・奈良県は、林芳正農水大臣（当時）に陳情して、「耕作放棄地重課税制」（放棄地は固定資産税が重課（1.8倍）される）を制定してもらった（平成28年から施行）
- ・ところが、奈良県では耕作放棄の実態が著しいにもかかわらず、重課税制の適用はほとんどなされていない（桜井市で平成29年に9筆3,207㎡の重課を実施）



重課制度の活用を含めた農地利用活動を行う農業委員会への働きかけや支援が必要

⑦ 担い手・農地サポートセンター（農地中間管理機構）では農地が不足

- ・奈良県の担い手・農地サポートセンターでは、担い手の借受希望農地面積が、貸付希望農地面積を上回る状態が続いている
- ・貸付希望農地を増やすためには、実質化した人・農地プランを活用し、将来的に後継者のいない農地所有者等に対しサポートセンターへ農地の貸付を働きかけることが必要



※借受希望面積と貸付希望面積は、それぞれ当該年度申込面積の合計。



見込みのある貸付農地を発掘し、サポートセンターへの農地供給の積極展開が必要

⑧ 適正な管理がなされていない森林が増加して防災上危険

- ・過去の木材需要の背景から、人工林が非常に多い
- ・木材需要の減少や、森林所有者の経営意欲の減退などから、施業放置林が多く、さらに増加している



地域産業の衰退と森林の荒廃を阻止し、
防災面に配慮した森林環境管理制度が必要



施業放置林

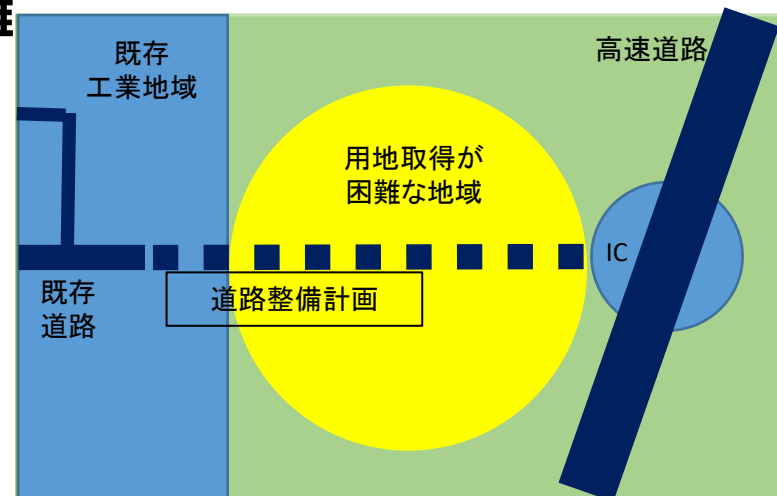
⑨ 土地利用を図るための広い道路がないために、工場の増設や立地が進まない

⑩ 土地所有意識が強く、まとまった用地取得が困難

- ・事業地へのアクセス道路が狭い
- ・土地取得が困難であるため企業立地が進まない



- ・ゾーニングプランと、それと整合した道路等とのインフラ計画をつくる必要がある
- ・用地取得を円滑にする工夫が必要



工業誘致を図るため道路整備を計画しているが、
用地取得が進まない例

3. 解決に向けて具体的にどうすればよいのか

① 土地利用ビジョンを地元からの発想でつくる

これまで：マスタープランに基づき各地域プラン（まちづくり計画）を策定



これから：各地域プラン（まちづくり計画）を先に考え、それをマスタープラン化

土地利用ビジョンのつくり方

- ・地域の目標を定める
- ・土地利用の大まかなゾーニングをする
- ・まちづくり(拠点施設(ゾーン)、インフラ整備等)に必要な土地取得(規模や配置等)の目途を立てる
- ・これらは各市町村ごと、または一部事務組合等の広域連携体制ごとに行う

② ビジョンをつくるため、地域住民の意見聴取を行い、ビジョンを自治会、土地所有者と共有する

- ・意識共有のための地域協議会を設置
- ・まとまらなければ、その地域でのビジョンを放棄。他の地域での実現を図る
- ・ビジョン実現のために、ひとつのプロジェクトに二つ以上の地域を予定する

③ 土地取得の基本原則を明確にして堅持する

- ・ 鑑定価格以上で土地は購入しない
- ・ 土地評価額審査制度を利用する
- ・ 地元自治会の理解を得る

(参考)

奈良県土地評価額審査制度の運用（令和2年度スタート）

- ①不動産鑑定士2者からの不動産鑑定を取得
- ②専門委員による審査会において、用地取得価格を精査する

④ 地域住民と土地所有者の概ねの賛同が得られたら、 ゾーニングプラン（地域の具体的な土地利用計画）をつくる

- ・ 地元の具体的な土地利用計画を前提とした県域都市計画マスタープランと県土地利用計画を策定する。
- ・ 地域の詳細な土地利用計画をマスタープランの一部に組み入れる

⑤ マスタープラン化された土地利用計画とインフラ（道路等）計画との整合性を図る

4. 解決に向けた手法・取組

① 特定農業振興ゾーンの設置

○農地の有効活用と農業の生産性向上を図るため、**農業振興施策を集中的・優先的に推進する区域を設置・拡大。**

○圃場整備
区画の大規模化



農業生産性の向上

例：高収益作物への転換



例：イチゴのハウス栽培

スマート農業の導入支援で省力化推進

○機械
施設の整備等

イチゴ栽培施設
の環境制御



(広陵町百済川向地区の例)

現在の担い手の耕作状況

現在の狭小な水田

将来の農地活用

ほ場整備により大区画化

整備後のイメージ

- ・新たな高収益作物（ナス）への転換
- ・集落営農の組織化
- ・ほ場整備（大区画化）

既協定地区	面積	テーマ
川西町下永東城地区	4.9ha	イチゴ、結崎ネブカの振興
田原本町法貴寺地区	73.4ha	スイカ採種の規模拡大 イチゴ等の振興
〃 八田地区	55.0ha	ナス、トマト、軟弱野菜の規模拡大
広陵町寺戸地区	3.4ha	イチゴ産地の復活 集落営農の組織化
〃 百済川向地区	21.8ha	ナスの産地復活 集落営農の組織化
五條市丹原地区	12.4ha	法人と連携した青ネギの導入 集落営農の組織化、法人化
宇陀市伊那佐東部地区	51.5ha	軟弱野菜、有機野菜、花き(ダリア)等の生産拡大

②森林環境管理制度の創設

- スイスの森林管理を参考に、森林の4機能（①森林資源生産、②防災、③生物多様性保全、④レクリエーション）を重視した施策を総合的に推進する。

<背景…土地利用上の問題点>

- ・省庁間の連携がない

(森林・林業基本法、森林法⇒農水省所管 自然環境保全法、生物多様性基本法 ⇒ 環境省所管)

- ・木材価格の低迷等により施業放置林が増加しており、森林防災力が低下（私有制による弊害）
- ・森林環境維持の権限（伐採届等）は市町村にあるが、専門人材の不足により、十分に対応できていない



市町村の業務を県が代行

- 県内の森林を4つの区分（①恒続林、②適正人工林、③自然林、④天然林）にゾーニングし誘導することにより、施業放置林を解消し、森林の4機能を高度発揮させ、環境と経済の両立を図る。

①恒続林

木材生産と環境保全の両立を目指す森林



②適正人工林

適正に管理されているスギ・ヒノキ人工林



③自然林

人工林を人為的に天然林へ再生した森林



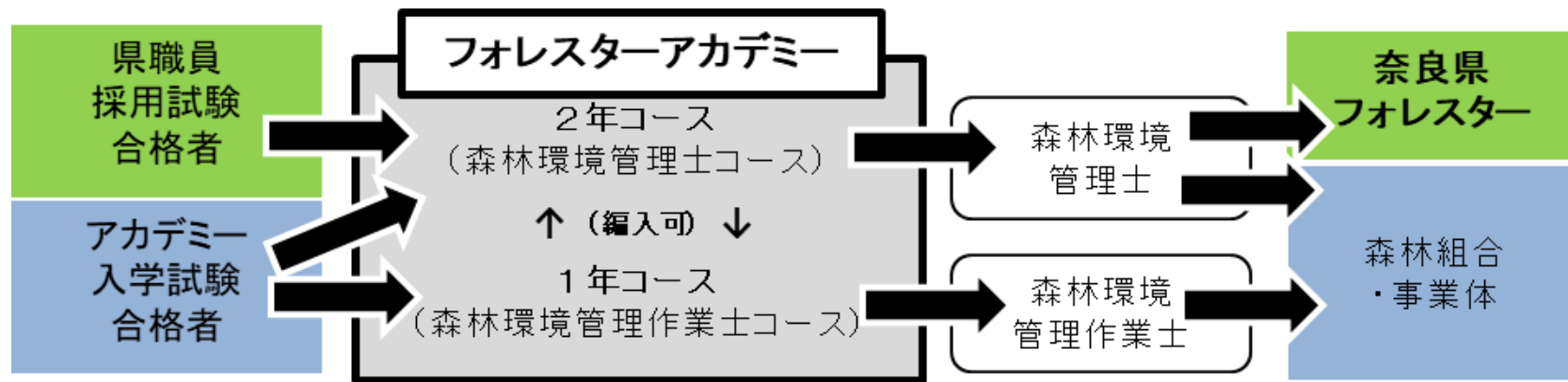
④天然林

地域の原植生の森林

③奈良県フォレスター制度

○森林・林業に関する市町村の事務を県が受託。令和3年4月に開校した奈良県フォレスターアカデミーを卒業した奈良県フォレスター（県職員）が市町村に駐在し、森林環境管理業務（伐採届等）に従事する。

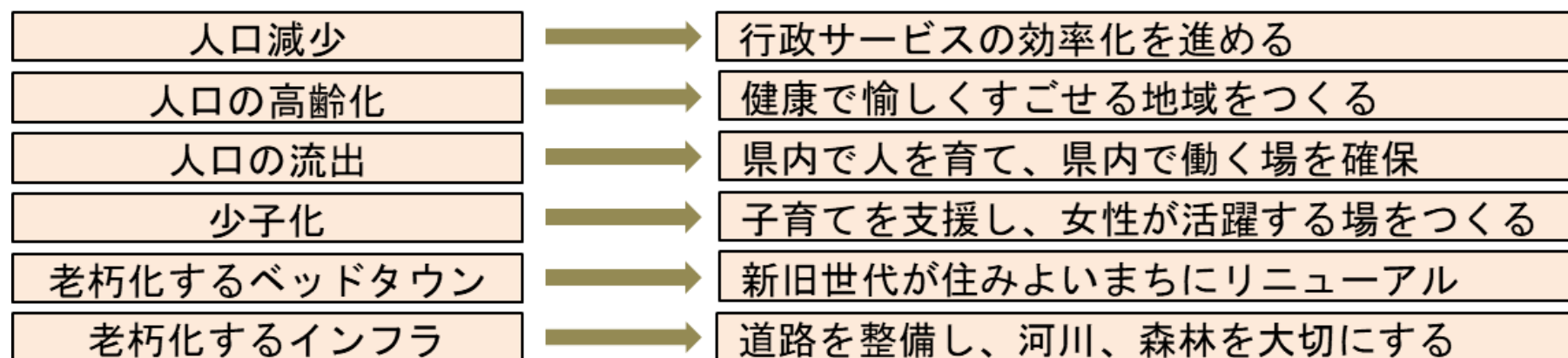
○市町村から県への委託費用に、市町村配分の森林環境譲与税を活用することを想定。



5. 奈良県の農家・農村とまちづくりの調和的・共生的発展ビジョン

- 人口減少と高齢化は奈良県でも顕著で、それらにどう立ち向かうかが重要課題となっている。
- 特に奈良県は、近年大阪のベッドタウンとして著しい人口増加があった地域なので、これから急激な人口減少と高齢化に見舞われることになり、事態がより深刻。
- この中で地方政府の役割としては、自身の頭で考え、独自の解決策を発見し、それを積極的に実行する人材の育成と、競争社会で落ちこぼれる人の雇用・生活を地域で保障することが重要になってきている。
- この意味で、地方は様々な考えを発酵させ、試行する「新しいアイディアの実験場」としての役割がある。深刻です。

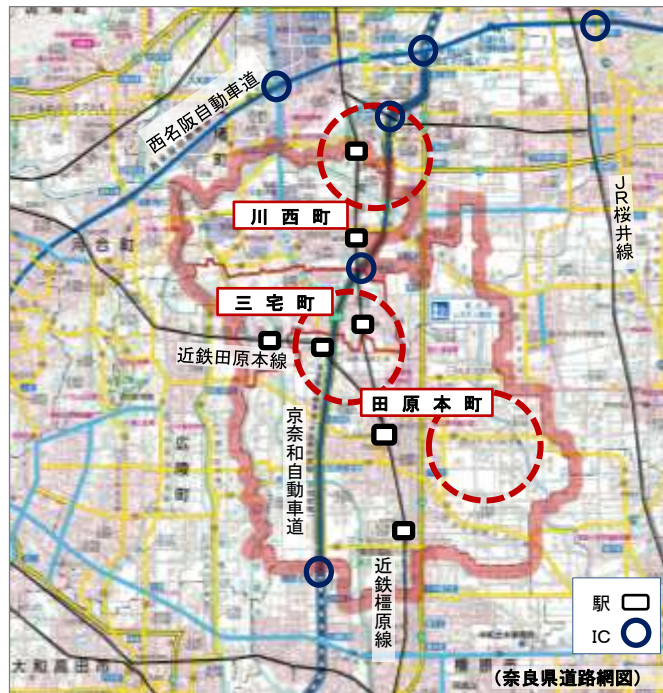
○地方の人口が大都市に流出し、高齢化が進む地域での**地方**政府の**主たる役割**は、行政効率化のほか、高齢者の健康維持、雇用の創出、教育の振興、子育て支援、まちづくり、国土の管理が中心になってきている。



○現在、奈良県では、県土の約3割に人口の90%以上が集中する大和平野における「**都市と農地の共存**」のあり方について検討を進めている。都市と農村を縦割りで捉えるのではなく、**共に栄え共生していく道**を探りたいと考えている。

I 大和平野中央プロジェクト

- 農地が広がっている大和平野中央部において、一団の土地を取得してプロジェクト用地を創出。



大和平野中央プロジェクトの推進について、川西町、三宅町、田原本町と協定を締結し、「ウェルネスタウン（健康増進のまちづくり）」「スタートアップヴィレッジ（産業活性化のまちづくり）」に取り組む。

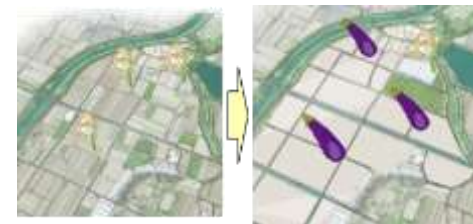
特定農業振興ゾーンを将来にわたり保持するため、地区計画への位置付け等を検討中。（現行では県による地区計画は策定できない。）

- プロジェクト用地周辺地域において、地元との協定のもと、将来にわたる収益性の高い農業生産を行う「特定農業振興ゾーン」を設定し、農業生産額を向上。

具体的な取組内容

- ・圃場整備等の基盤整備や高収益作物への転換、先進的取組の支援により収益性の高い農業経営を確立。
- ・特定農業振興ゾーンの拡大により、農業の振興を図る。

【圃場の大規模化】



【機械・施設の整備等】



イチゴ栽培施設の環境制御

農地は縮小するが、当該地域の農業生産額を従前より向上させることが目標

大和平野中央プロジェクトの考え方

場 所

○農村地域であり、そこに都市と農村の共存・共栄のパターンを実現しようとするもの。

背 景

○奈良県は、そのベッドタウンとしての地域の性格から、若者の県内雇用、就学の機会が充分でなく、近年若者を中心とした人口減少が著しく、「多様な雇用の場の創出」が最重要課題。

○農業中心の当地では、農業の後継者難から潜在的なものも含めて耕作放棄が顕著になってきており、「農地とまちづくりの調和と共生」が喫緊の課題。

経 緯

○令和2年10月 磯城郡3町（川西町、三宅町、田原本町）と地域活性化に寄与する拠点施設の整備について協議を開始する「覚書」を締結。

○令和3年5月 磯城郡3町と個別に「まちづくりのテーマ」と「対象地区」を決定する「協定書」を締結。

まちづくり のテーマと 対象地区

テーマ	対象地区
まほろば健康パークと連携したウェルネスタウン (健康増進)	川西町下永地区
県立大学工学系学部を核としたスタートアップヴィレッジ (産業の活性化)	三宅町石見地区
スポーツ施設を核としたウェルネスタウン (健康増進)	田原本町阪手北・ 西井上地区

ビジョン策定と 実践について

○各般の皆様へ知恵を貸していただきたい。

○実践上、役に立つ手法、やり方を教えていただきたい。

(1) 大和平野中央プロジェクトの事業目標とスーパーシティ戦略の類似性

- 国においては、国家戦略特区法に基づく「スーパーシティ区域」の募集を始められており、その1次募集は既に行われたところである。国の戦略特区の目的である、先端的サービスの実行と広範かつ大胆な規制・制度改革は、奈良県と磯城郡3町が目指す、大和平野中央プロジェクトの**目標と一致するところが多く**、国の戦略推進に寄与貢献できるところも少なからず見受けられることから、当プロジェクトをさらに進化させて、国のスーパーシティ区域の**第2次募集**を視野に入れて検討することが望ましいと判断するところである。

(2) 検討会の開始

- このため、奈良県と磯城郡3町は、大和平野中央プロジェクトの進化を図るため、9月県議会補正予算で認められた、**コンソーシアム形式によるシンポジウム中心の検討会**をスタートさせることとした。

大和平野中央プロジェクトの事業目標

- ① 雇用の場の確保と若者の県外流出抑止
- ② 人材育成と県内企業の人材確保
- ③ 県内の若者、女性、高齢者の再教育
- ④ 子どもから高齢者までの県民の健康で健全な生活の維持向上



スーパーシティの構成



※内閣府HPから抜粋

- 第2次応募までのスケジュール
令和3年度末ごろに第2次公募の見込

大和平野中央プロジェクト周辺エリア・田園都市建設構想の検討

ポイント①

○「都市」と「農地」が共生するしくみの構築

農地をプロジェクト用地として活用するとともに**特定農業振興ゾーン**を核として農業を振興（農業生産額を維持・向上）



農地法等の規制改革を提案

ポイント②

○既成市街地の住・商・工・農の混在化を解消

地区協議会を設置し「地区計画」の検討・策定・実行により、住みやすく働きやすい土地利用へ転換



ポイント③

【ハウードの田園都市構想】

自然と共生し、自立した**職住近接型**の緑豊かな都市を建設しようとする構想
 (1902年 エベネザー・ハウードが提唱)



6. 統計で見る西和7町の現状

1. 地勢

人口・面積・昼夜間人口比率

- ・ **人口** : 約7千人 (安堵町) ~ 約27千人 (斑鳩町) **西和7町計 137千人** (橿原市 約121千人より多い)
- ・ **人口密度** : 758人 (平群町) ~ 3,446人 (上牧町) **西和7町 1,897人/km²** (大和郡山市 1,973人/km²と同程度)
- ・ **面積** : 4.3km² (安堵町) ~ 23.9km² (平群町) **西和7町計 72.7km²** (天理市86.4km²、御所市60.6km²)
- ・ **昼夜間人口比率** : 75.1% (平群町、県内トップ) ~ 88.8% (河合町) **西和7町全て県90%を下回っており移動人口が多い。**

■市町村別人口・人口密度・面積

	人口		人口密度		面積		昼夜間人口比率	
	(人)	順位	(人/km ²)	順位	(km ²)	順位	(%)	順位
奈良市	352,974	1	1,274.6	16	276.94	3	94.82	16
大和高田市	61,103	7	3,707.7	1	16.48	30	86.69	27
大和郡山市	84,258	4	1,973.7	10	42.69	21	103.4	7
天理市	64,538	6	746.8	19	86.42	13	99.94	9
橿原市	121,688	2	3,076.0	5	39.56	22	92.71	18
桜井市	54,526	8	551.3	20	98.91	11	87.18	25
五條市	27,854	13	95.4	26	292.02	2	101.5	8
御所市	24,529	15	404.9	22	60.58	17	96.57	14
生駒市	116,331	3	2,188.7	7	53.15	18	77.28	37
香芝市	78,414	5	3,232.2	4	24.26	26	77.92	35
葛城市	37,110	9	1,100.5	17	33.72	24	85.01	29
宇陀市	27,965	12	113.0	25	247.50	6	85.27	28
山添村	3,220	29	48.4	29	66.52	15	93.06	17
平群町	18,125	19	758.4	18	23.90	28	75.14	39
三郷町	23,282	17	2,648.7	6	8.79	33	78.18	34
斑鳩町	27,356	14	1,917.0	11	14.27	32	77.79	36
安堵町	7,225	23	1,676.3	12	4.31	38	81.88	32
川西町	8,340	22	1,406.4	15	5.93	37	99.91	10
三宅町	6,534	25	1,609.4	13	4.06	39	76.49	38
田原本町	30,981	11	1,469.0	14	21.09	29	91.34	20

	人口		人口密度		面積		昼夜間人口比率	
	(人)	順位	(人/km ²)	順位	(km ²)	順位	(%)	順位
曽爾村	1,362	33	28.5	30	47.76	19	89.61	23
御杖村	1,488	31	18.7	31	79.58	14	91.93	19
高取町	6,667	24	258.5	23	25.79	25	95.19	15
明日香村	5,267	27	218.5	24	24.10	27	87.16	26
上牧町	21,163	18	3,446.7	2	6.14	36	82.86	31
王寺町	23,730	16	3,385.2	3	7.01	35	84.95	30
広陵町	33,578	10	2,060.0	9	16.30	31	81.11	33
河合町	16,999	20	2,065.5	8	8.23	34	88.81	24
吉野町	6,165	26	64.5	28	95.65	12	99.09	11
大淀町	16,571	21	434.9	21	38.10	23	90.04	21
下市町	4,803	28	77.5	27	61.99	16	89.71	22
黒滝村	562	37	11.8	32	47.70	20	99.09	11
天川村	1,155	34	6.6	34	175.66	7	105	6
野迫川村	345	39	2.2	38	154.90	8	108.7	4
十津川村	3,068	30	4.6	36	672.38	1	108.3	5
下北山村	747	36	5.6	35	133.39	9	108.8	2
上北山村	426	38	1.6	39	274.22	4	108.8	3
川上村	1,077	35	4.0	37	269.26	5	109.3	1
東吉野村	1,444	32	11.0	33	131.65	10	96.91	13
県	1,322,970		358.4		3,690.94		90.04	
西和7町	137,880		1,897.9		72.65		81.1	

出典) 奈良県推計人口年報 (令和2年10月1日現在)

2. 人口

①過去20年間の人口動向

- ・この20年間では、西和7町は**王寺町**、**三郷町**以外は**社会減**となっている。**王寺町のみ自然増**となっており人口が増えている。
- ・上牧町・平群町では、自然減の割合が社会減の割合を大幅に上回っている状況。
(合計特殊出生率(H27奈良県平均1.35)が県内でも低い(**平群町(1.07(第39位))**)・**上牧町(1.09(第38位))**)

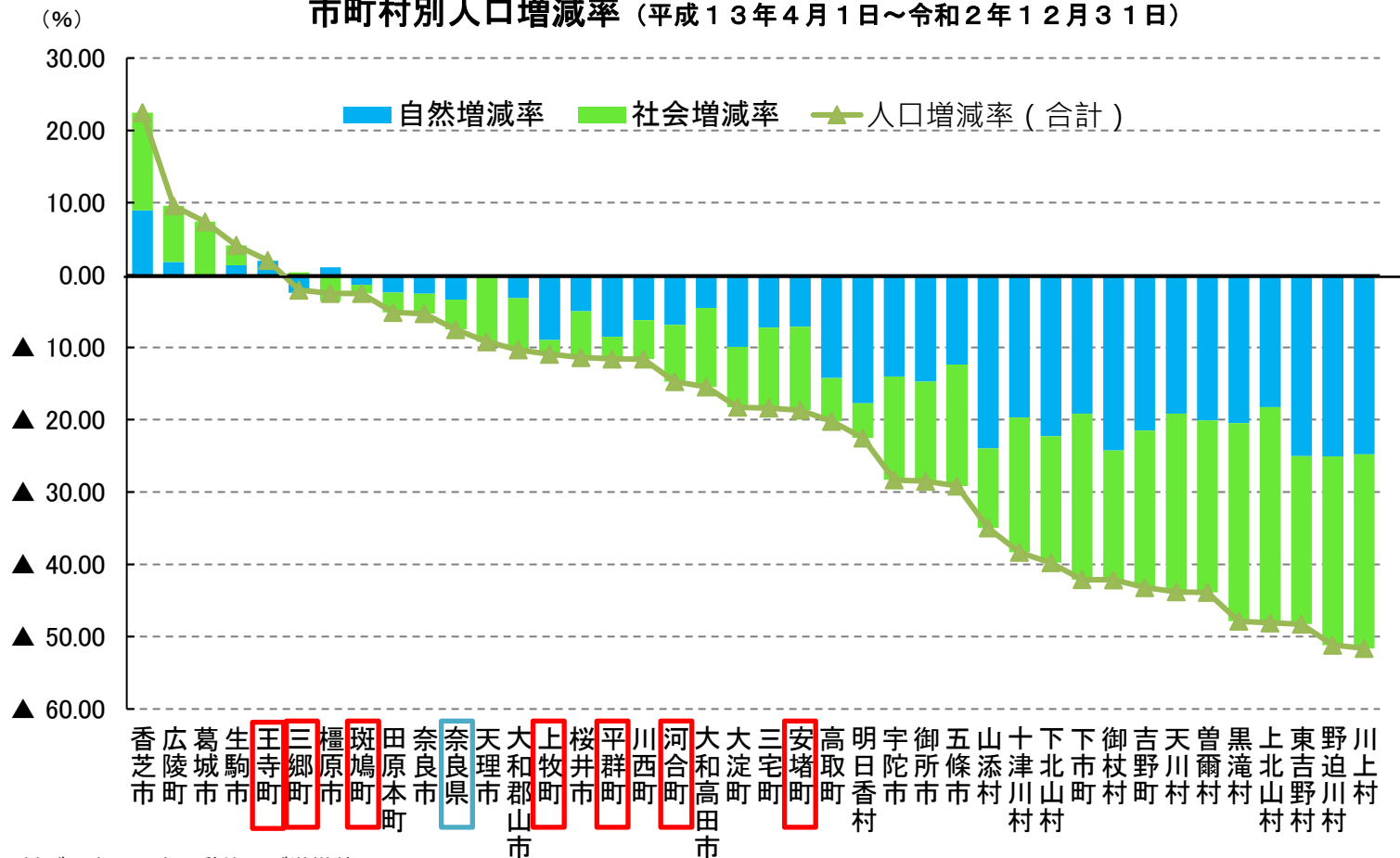
市町村別人口増減率

(H13.4.1~R2.12.31)

単位: %

市町村	人口増減率(合計)	自然増減率	
		自然増減率	社会増減率
香芝市	22.47	8.94	13.53
広陵町	9.56	1.81	7.76
葛城市	7.36	▲0.05	7.41
生駒市	4.10	1.34	2.76
王寺町	2.03	1.99	0.04
三郷町	▲2.08	▲2.46	0.39
橿原市	▲2.53	1.09	▲3.62
斑鳩町	▲2.55	▲1.33	▲1.22
田原本町	▲5.15	▲2.40	▲2.75
奈良市	▲5.34	▲2.57	▲2.77
奈良県	▲7.53	▲3.41	▲4.11
天理市	▲9.22	▲0.27	▲8.94
大和郡山市	▲10.35	▲3.21	▲7.14
上牧町	▲10.94	▲9.00	▲1.95
桜井市	▲11.40	▲5.00	▲6.40
平群町	▲11.59	▲8.54	▲3.05
川西市	▲11.62	▲6.24	▲5.37
河合町	▲14.74	▲6.90	▲7.84
大和高田市	▲15.46	▲4.55	▲10.91
大淀町	▲18.27	▲9.94	▲8.33
三宅町	▲18.39	▲7.26	▲11.13
安堵町	▲18.67	▲7.12	▲11.56
高取町	▲20.21	▲14.24	▲5.97
明日香村	▲22.52	▲17.71	▲4.80
宇陀市	▲28.33	▲14.05	▲14.28
御所市	▲28.51	▲14.71	▲13.79
五條市	▲29.17	▲12.46	▲16.71
山添村	▲34.98	▲23.98	▲11.00
十津川村	▲38.34	▲19.71	▲18.63
下北山村	▲39.77	▲22.30	▲17.47
下市町	▲42.11	▲19.15	▲22.96
御杖村	▲42.13	▲24.24	▲17.89
吉野町	▲43.21	▲21.51	▲21.70
天川村	▲43.80	▲19.17	▲24.63
曾爾村	▲43.88	▲20.12	▲23.76
黒滝村	▲47.85	▲20.49	▲27.35
上北山村	▲48.09	▲18.25	▲29.84
東吉野村	▲48.27	▲25.03	▲23.24
野迫川村	▲51.17	▲25.07	▲26.10
川上村	▲51.62	▲24.77	▲26.84

市町村別人口増減率 (平成13年4月1日~令和2年12月31日)

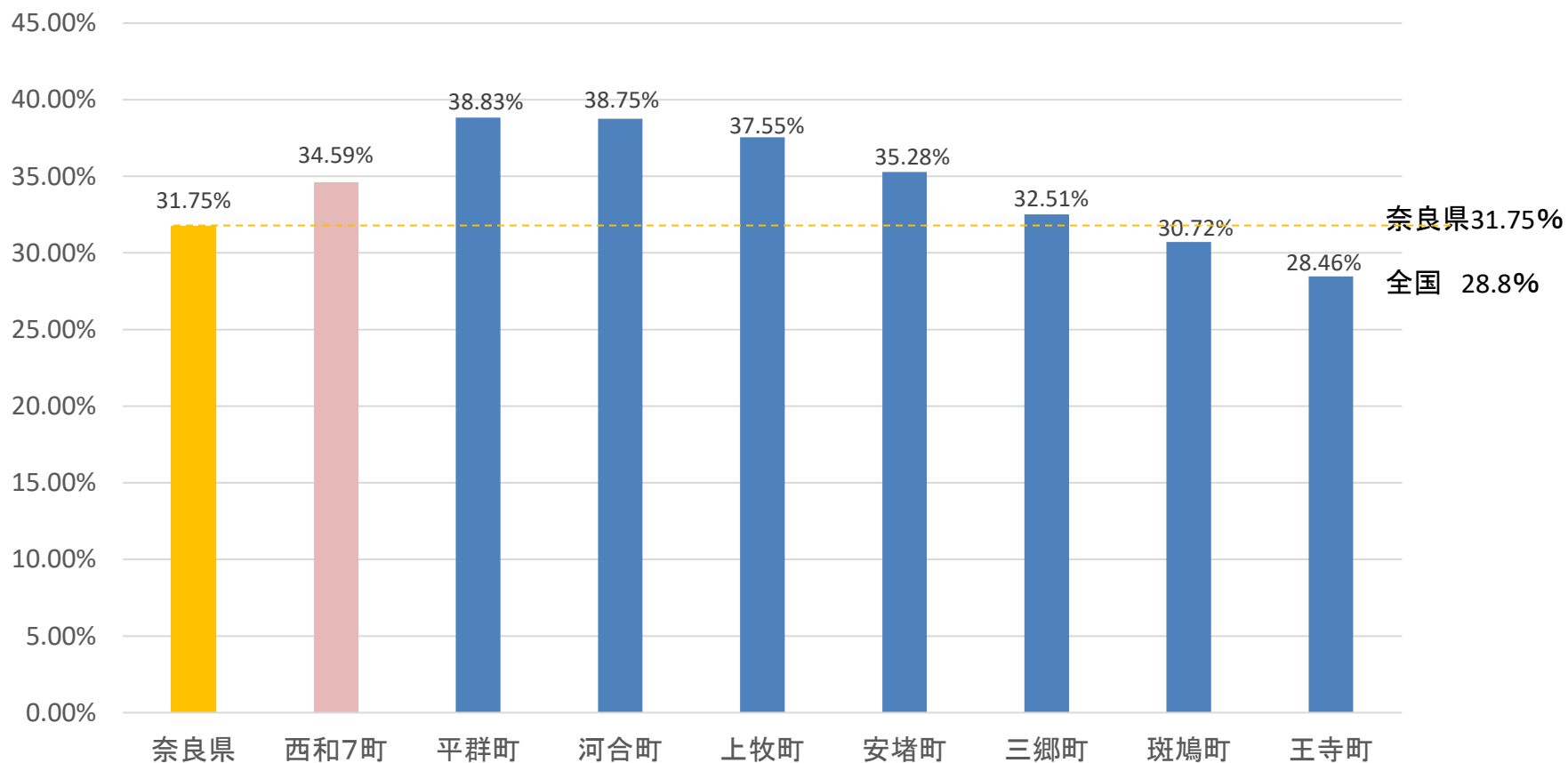


出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

②高齡化の状況

- ・西和7町の**高齢化率の平均は34.59%**で、**全国(28.8%)及び奈良県(31.75%)よりも高い状況。**
- ・西和7町のうち高齢化率が最も高いのは平群町(38.83%)、最も低いのは王寺町(28.46%)。

高齢化の状況(R2年10月現在)

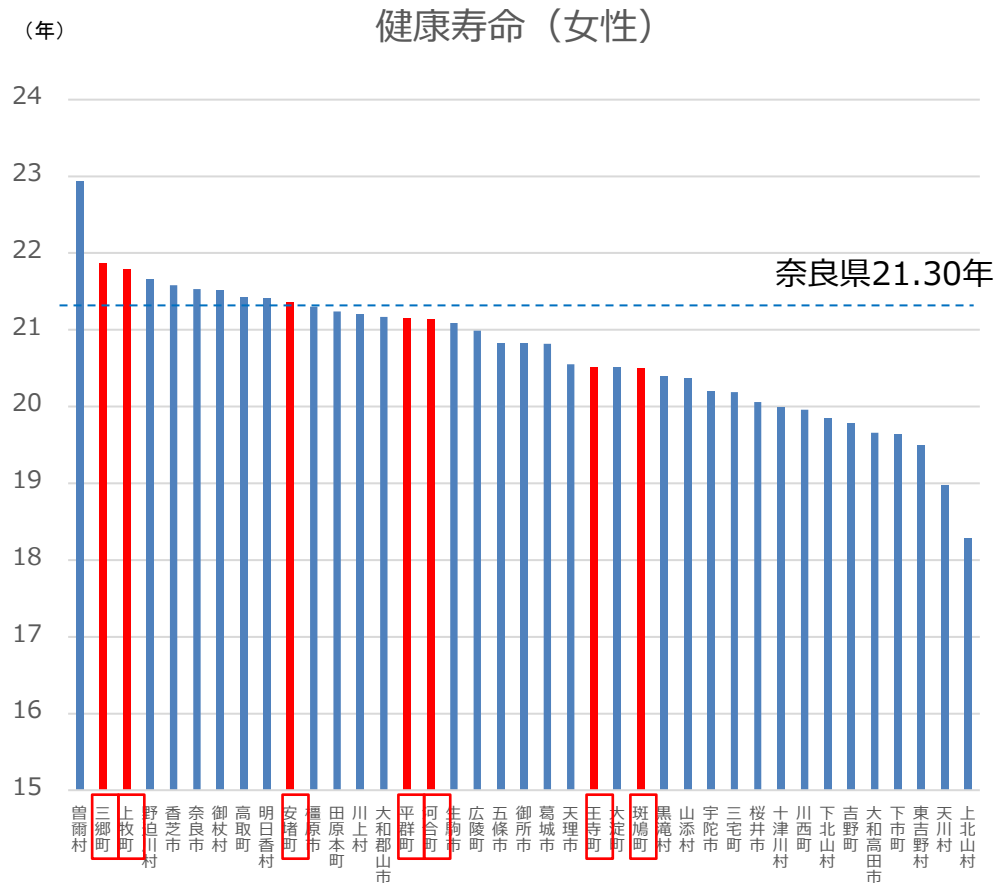
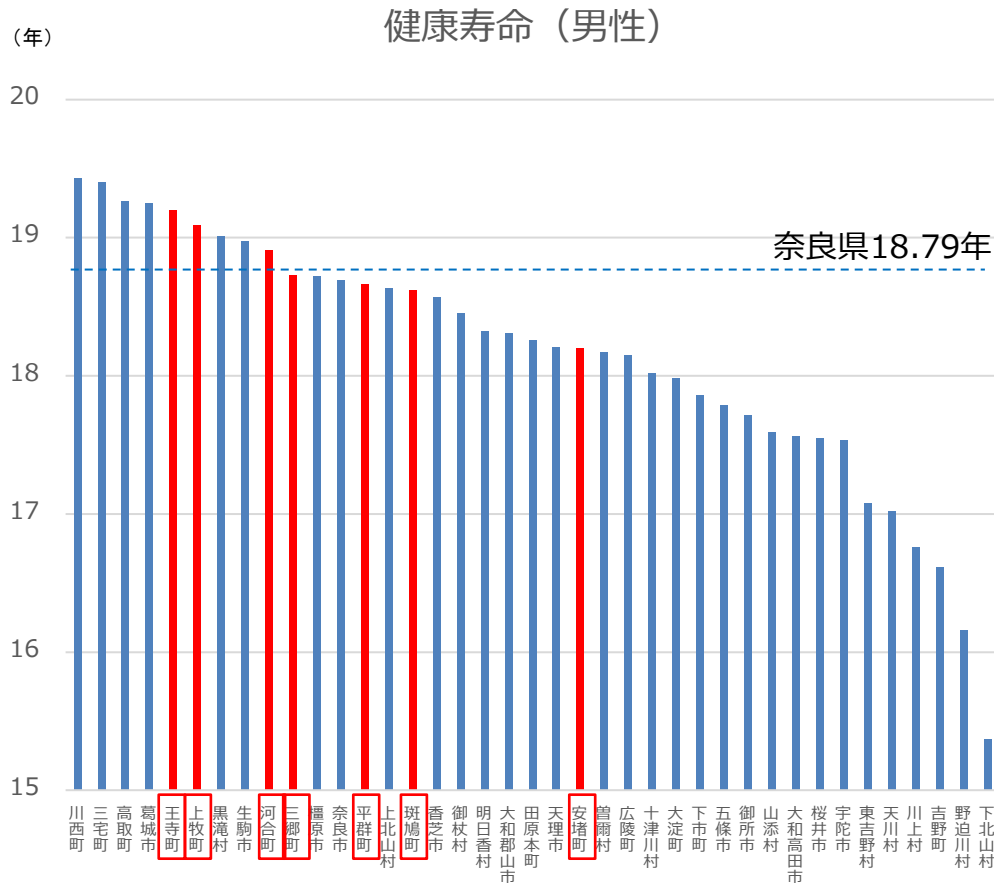


出典) 介護保険課調べ

3. 健康

①健康寿命

- 健康寿命は男性では**王寺町**、**上牧町**、**河合町**、女性では**三郷町**、**上牧町**、**安堵町**が**県平均**（男性：18.79年、女性：21.30年）を上回っている。
- 西和7町のうち健康寿命が最も長いのは、男性では**王寺町**(19.20年)、女性では**三郷町**(21.86年)。

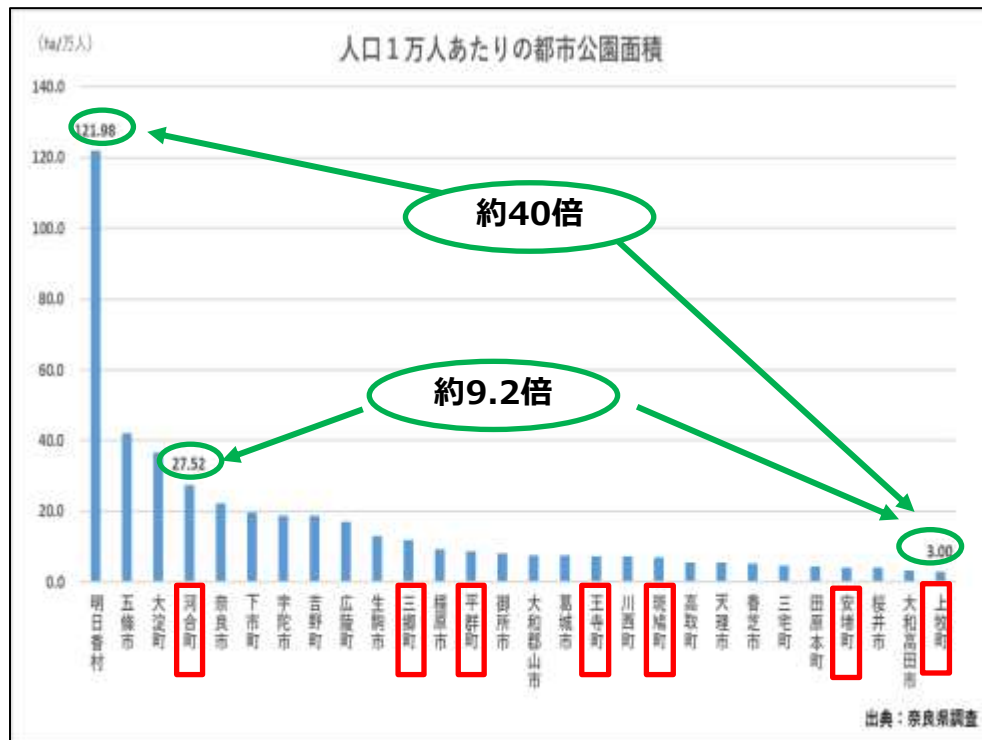
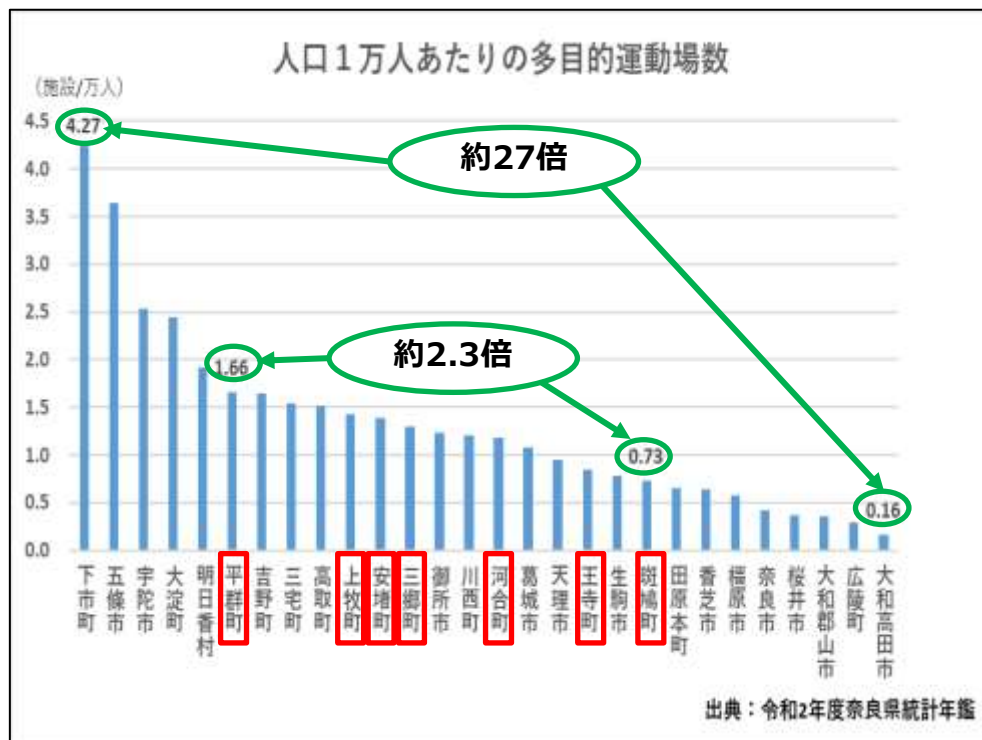


※県平均は令和元年の値
市町村は平成30（H29～R元）年の値

出典) 奈良県民の健康寿命 (奈良県調べ)

②健康環境の状況（運動場数、公園面積）

- ・県内では、一番多い市町村と一番少ない市町村との差は運動場数で約27倍、公園面積で約40倍となっており、市町村によってバラツキがある。西和7町では、運動場数で約2.3倍、公園面積で約9.2倍となっている。



※都市計画区域市町村で比較
 ：西和7町

4. 医療

①医療施設（病院）の状況

- ・急性期を中心とする病院が3病院、回復期・慢性期を中心とする病院が3病院所在している。
- ・急性期病院では、西和医療センターが、最も規模が大きく、**西和地域の急性期医療拠点**となっている。

病床機能報告制度における「西和7町」 に所在する病院の機能別病床数

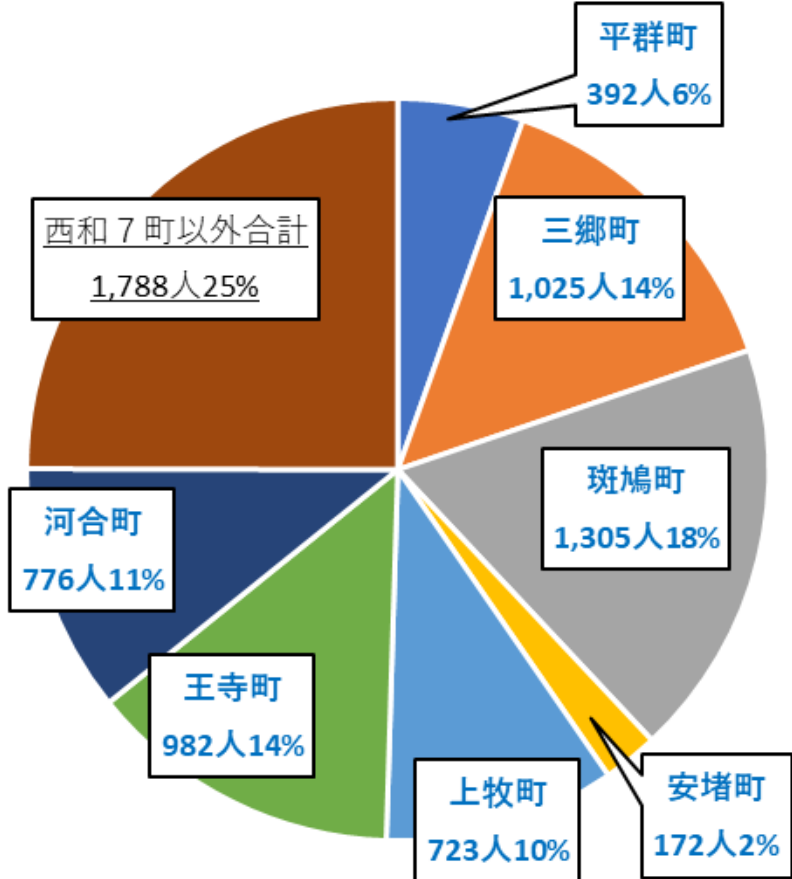
所在市 町村	病院名	2020年度						
		病床 数	高 度	急性期		回 復 期	慢 性 期	休 床 等
				重 症	軽 症			
三郷町	奈良県西和医療センター	300	10	290				
	ハートランドしぎさん	47					47	
上牧町	奈良友誼会病院	192			49		143	
	西大和 リハビリテーションセンター	199				99	100	
	服部記念病院	162			120		42	
王寺町	恵王病院	105		52	53			
合計		1005	10	342	222	99	332	0
				重症急性期+軽症急性期 計		564		

出典) 県HPより抜粋

②西和医療センターの利用者の状況

- 西和医療センターの入院患者のうち、**西和7町の患者数は約75%**となっており、多くの患者が西和医療センターを利用している状況。
- 西和7町以外からは、香芝市、広陵町からの患者が多い状況となっており、西和7町と香芝市、広陵町からの患者が90%を占める。

西和医療センターの市町村別入院患者数（平成30年度）



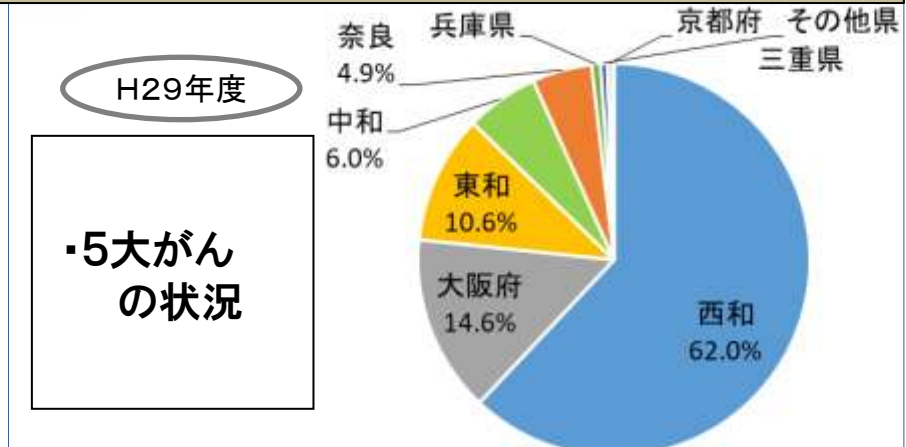
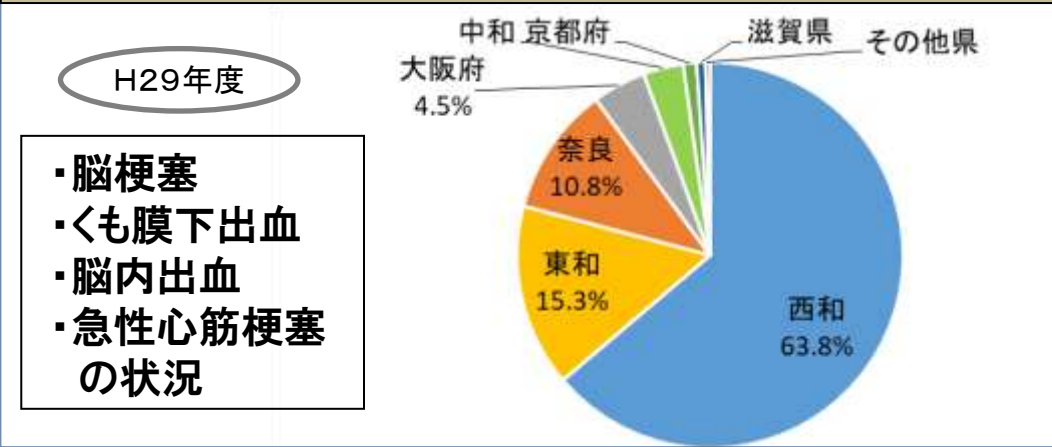
出典) 西和医療センター調べ

③西和7町の患者の受療動向

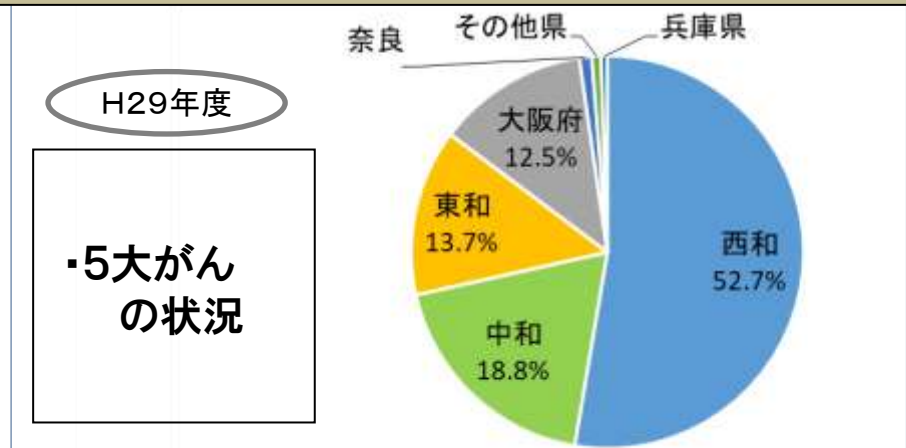
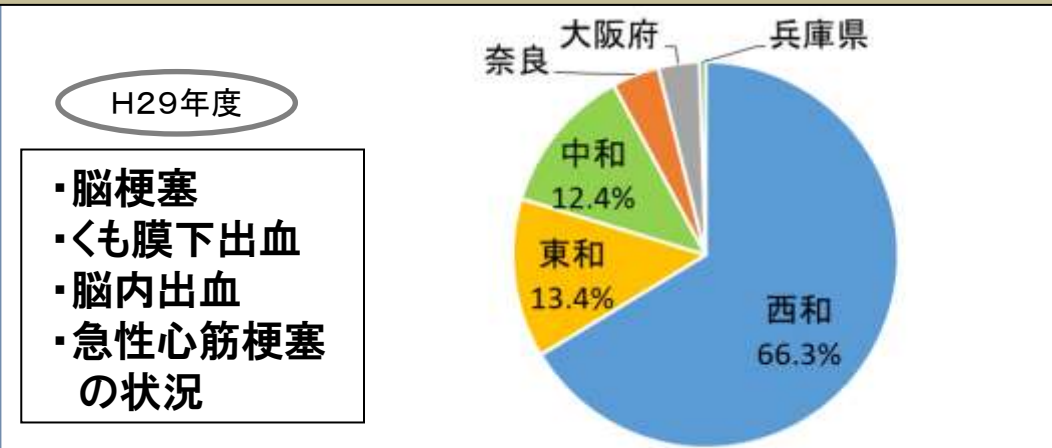
○生駒郡の患者は、6割強が西和医療圏の病院に入院しており、急ぐ医療とされる「脳梗塞等」は、東和や奈良医療圏の病院に各1割強が入院している。時間的に比較的余裕があるとされる「5大がん」は、大阪府や東和医療圏の病院に各1割強が入院している。

○北葛城郡の患者は、約6割が西和医療圏の病院に入院しており、「脳梗塞等」は、東和や中和医療圏の病院に各1割強が入院している。「5大がん」は、中和医療圏に2割弱、東和医療圏及び大阪府の病院に各1割強が入院している。

生駒郡(平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町)在住の入院患者の入院先医療圏



北葛城郡(上牧町、王寺町、河合町)在住の入院患者の入院先医療圏



・平成29年4月～平成30年3月の奈良県市町村国保と後期高齢者医療制度の被保険者データ

5. 就業

就業状況

- ・西和7町の県外就業率は県平均を上回っており、**県外への就業者が多い地域**となっている。特に**王寺町**と**三郷町**は、市町村別で生駒市に次いで、2位、3位と**非常に高い値**となっている。
- ・県内他市町村への就業率は、**西和7町全ての地域で県平均を上回っており、特に安堵町が高い状況。**

就業状況	奈良県	西和7町	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町	
人口(人)	1,322,970	137,880	18,125	23,282	27,356	7,225	21,163	23,730	16,999	
対奈良県比率	—	10.4%	1.4%	1.8%	2.1%	0.5%	1.6%	1.8%	1.3%	
就業人口(人)	590,822	58,182	7,798	9,410	11,625	3,258	8,760	10,204	7,127	
人口比率(%)	44.7%	42.2%	43.0%	40.4%	42.5%	45.1%	41.4%	43.0%	41.9%	
対奈良県比率	—	9.8%	1.3%	1.6%	2.0%	0.6%	1.5%	1.7%	1.2%	
県内・ 県外別	県外就業人口	165,255	21,712	2,943	4,006	3,958	912	3,005	4,485	2,403
	就業率(%)	28.8	38.1	38.3	43.1	34.8	28.6	35.7	44.3	35.0
	県内順位(位)	—	—	5	3	8	10	6	2	7
	町内就業人口	247,070	14,454	2,267	2,193	3,143	695	2,167	2,232	1,757
	町内(%)	42.5	25.2	29.4	23.5	27.4	21.6	25.4	22.0	25.2
	県内順位(位)	—	—	28	37	33	39	35	38	36
	県内他市町村 就業人口	164,872	20,884	2,480	3,102	4,293	1,586	3,274	3,416	2,733
	県内(他市町村)(%)	28.7	36.7	32.3	33.4	37.8	49.8	38.9	33.7	39.8
	県内順位(位)	—	—	22	21	17	4	15	20	13
※就業率とは、15歳以上人口に占める就業者の割合。 ※2就業人口はH27国勢調査より。 ※3比率は作業地不詳の補正あり。										

6. 産業

① 商業の状況

・「卸・小売事業所数」及び「卸・小売年間商品販売額」の人口千人当たり指標において、**西和7町全ての地域で県平均を下回っている。**

	奈良県	西和7町	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町
人口(人)	1,322,970	137,880	18,125	23,282	27,356	7,225	21,163	23,730	16,999
対奈良県比率	100.0%	10.4%	1.4%	1.8%	2.1%	0.5%	1.6%	1.8%	1.3%
卸・小売事業所数	11,792	724	89	76	166	23	115	158	97
対奈良県比率	100.0%	6.1%	0.8%	0.6%	1.4%	0.2%	1.0%	1.3%	0.8%
千人当たりの卸・小売事業所数	8.9	5.3	4.9	3.3	6.1	3.2	5.4	6.7	5.7
卸・小売年間商品販売額(百万円)	2,266,196	110,926	17,126	5,115	21,798	1,767	24,500	21,293	19,327
対奈良県比率	100.0%	4.9%	0.8%	0.2%	1.0%	0.1%	1.1%	0.9%	0.9%
千人当たりの卸・小売年間商品販売額(百万円)	1,713	805	945	220	797	245	1,158	897	1,137

※H28年経済センサス-活動調査(総務省)

※奈良県推計人口年報(令和2年10月1日現在)

	奈良県(参考)	西和7町	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町
大規模小売店舗数	235	20	3	1	4	1	6	4	1
総合スーパー	24	5	1	0	1	0	2	1	0
食品スーパー	92	9	2	1	1	0	2	2	1
ホームセンター	25	2	0	0	0	1	0	1	0
専門店(衣料、家具、家電、書籍、医薬品等)	78	4	0	0	2	0	2	0	0
その他(百貨店ほか)	16	0	0	0	0	0	0	0	0
小売業を行う面積合計(千㎡)	1195.1	94.5	11.7	1.3	9.1	4.9	43.9	21.9	1.7

※東洋経済新報社「全国大型小売店総覧」2019版2018年7月現在データ

②工業の状況

- ・「人口千人製造業事業所数」及び「製造品出荷額」も低くなっている。
- ・一方でニチアス（株）のような大手企業その他、ヒラノテクシード（株）、ダイゴ（株）、太平化学産業（株）、（株）みやまえなど、**ニッチトップ企業が立地**している。

	奈良県	西和7町	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町
人口(人)	1,322,970	137,880	18,125	23,282	27,356	7,225	21,163	23,730	16,999
対奈良県比率	—	10.4%	1.4%	1.8%	2.1%	0.5%	1.6%	1.8%	1.3%
製造業事業所数	2,257	146	13	20	39	20	17	14	23
対奈良県比率	—	6.5%	0.6%	0.9%	1.7%	0.9%	0.8%	0.6%	1.0%
千人当たりの製造業事業所数	1.7	1.1	0.7	0.9	1.4	2.8	0.8	0.6	1.4
従業員数(人)	58,165	3,694	154	282	914	804	500	543	497
対奈良県比率	—	6.4%	0.3%	0.5%	1.6%	1.4%	0.9%	0.9%	0.9%
製造品出荷額等(百万円)	184,514	8,199	199	496	1,667	2,703	579	1,000	1,555
対奈良県比率	—	4.4%	0.1%	0.3%	0.9%	1.5%	0.3%	0.5%	0.8%
千人当たりの製造品出荷額等(百万円)	139	59	11	21	61	374	27	42	91
		※H28年経済センサス-活動調査(総務省)				※奈良県推計人口年報(令和2年10月1日現在)			
面積(ha)	369,094	7,271	2,390	880	1,427	433	614	700	827
(うち、市街化区域)	20,366	2,446	370	368	418	123	385	447	335
(うち、工業系用途)	2,414	113	5	22	14	34	15	18	6
市街化区域のうち工業系用途比率	11.9%	4.6%	1.2%	5.9%	3.3%	27.7%	3.8%	4.0%	1.8%
※R2年都市計画現況調査(国土交通省)									

③農業の状況

・農業産出額において、平群町が県下5位、中でも花きの生産が盛ん（県下1位）。耕地面積は、平群町と斑鳩町が多い一方で、平群町、上牧町では耕作放棄地割合が多い。

市町村名	農業産出額 (1,000万)	野菜	果実	花き
奈良県	4,024	1,041	766	296
西和7町	356	65	47	140
	8.8%	6.2%	6.1%	47.3%
奈良市	377	51	6	8
大和高田市	86	44	0	x
大和郡山市	167	51	13	11
天理市	316	113	42	23
橿原市	100	13	4	x
桜井市	105	39	5	5
五條市	1,111	242	551	51
御所市	138	25	6	x
生駒市	34	9	0	-
香芝市	28	4	0	x
葛城市	168	48	1	14
宇陀市	365	137	2	21
山添村	63	8	0	6
平群町	217	31	30	139
三郷町	10	3	2	0
斑鳩町	51	23	9	1
安堵町	44	2	1	-
川西町	23	5	0	-
三宅町	19	3	0	-
田原本町	140	53	1	x
曾爾村	28	23	0	0
御杖村	59	29	0	0
高取町	31	16	0	0
明日香村	68	31	12	x
上牧町	11	4	1	-
王寺町	3	0	-	-
広陵町	64	19	1	x
河合町	20	2	4	-
吉野町	14	2	0	0
大淀町	54	5	26	x
下市町	86	6	49	x
黒滝村	12	0	-	7
天川村	0	-	-	-
野迫川村	0	-	-	-
十津川村	11	0	-	10
下北山村	1	0	0	-
上北山村	0	-	-	-
川上村	0	0	-	-
東吉野村	0	-	-	-

県内の農業就業者が占める割合が多い 市町村上位10位(2015国勢調査)

順位	市町村名	産業従事者 総数(人)	うち農業 (人)	農業が占める割合	地域
1位	山添村	1,867	374	20.00%	大和高原
2位	御杖村	815	150	18.40%	大和高原
3位	曾爾村	749	118	15.80%	大和高原
4位	五條市	14,549	2,184	15.00%	五條吉野
5位	明日香村	2,528	277	11.00%	大和平野
6位	下市町	2,597	248	9.60%	五條吉野
7位	宇陀市	13,995	1,086	7.80%	大和高原
8位	平群町	7,798	457	5.90%	大和平野
9位	御所市	11,004	543	4.90%	大和平野
10位	天理市	30,453	1,272	4.20%	大和平野
	奈良県	590,818	14,449	2.50%	

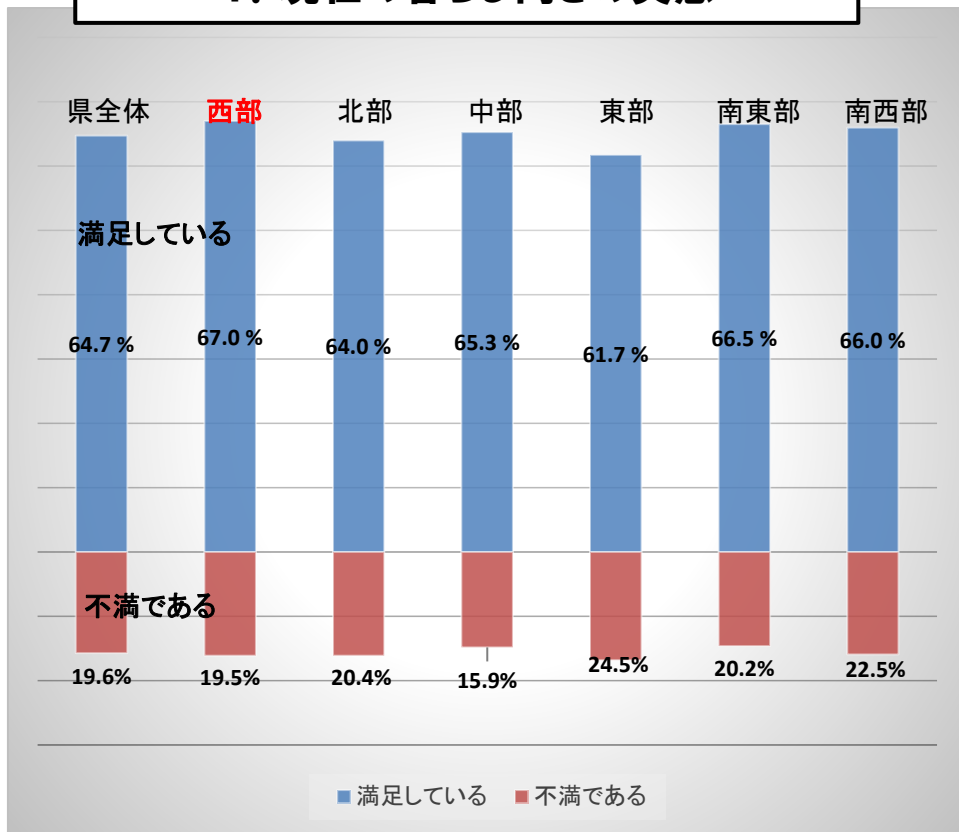
西和7町における耕作地の状況 (農林業センサス2015)

市町村名	耕地面積 (ha)	耕作 放棄地 (ha)	耕作 放棄地 割合
奈良県	17,143	3,633	21.2%
西和7町	912	152	16.7%
対奈良県割合	5.3%	4.2%	-
平群町	267	67	25.1%
三郷町	22	2	9.1%
斑鳩町	245	28	11.4%
安堵町	117	2	1.7%
上牧町	70	17	24.3%
王寺町	37	8	21.6%
河合町	154	28	18.2%

7. 生活全般

- ・西和7町における現在の暮らし向きに満足している割合は、他地域に比べて最も高くなっている。
- ・また、重要度が高いと感じている「市町村行政に対する住民意向の反映」について、最も満足度が低くなっている。

1. 現在の暮らし向きの実感



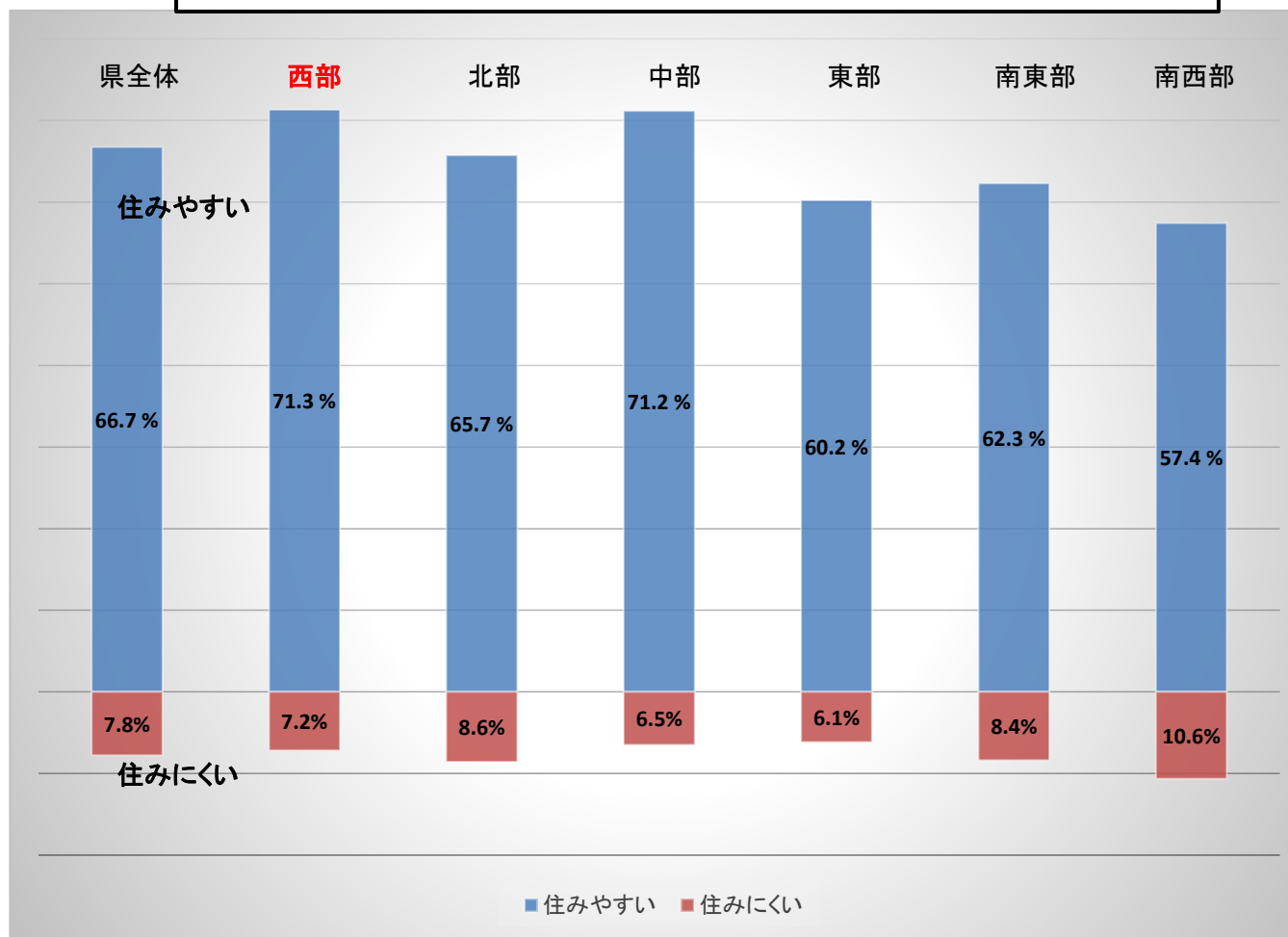
2. 西和7町の住民が重要度は高いが満足度が低いと感じているもの

(5段階評価)	満足度		重要度			
	R3	R2	R3	R2		
高齢者・障害者が安心できるまちづくり	3.02	⑧	2.88	4.29	②	4.15
自主防災対策の充実	3.01	⑦	2.91	4.32	④	4.28
防災対策の充実	3.00	⑥	2.96	4.64	⑧	4.54
精神的な緊張の軽減	2.98	⑤	3.03	4.29	②	4.12
子どもの暴力・いじめの撲滅	2.95	④	2.99	4.61	⑦	4.28
安心できる周産期医療体制	2.95	③	2.89	4.36	⑤	4.16
失業者の不安がない社会づくり	2.88	②	2.86	4.37	⑥	4.22
市町村行政に対する住民意向の反映	2.71	①	2.70	4.23	①	4.04

※重要度が全体33項目中平均(4.19)以上で、満足度が平均(3.06)以下のもの

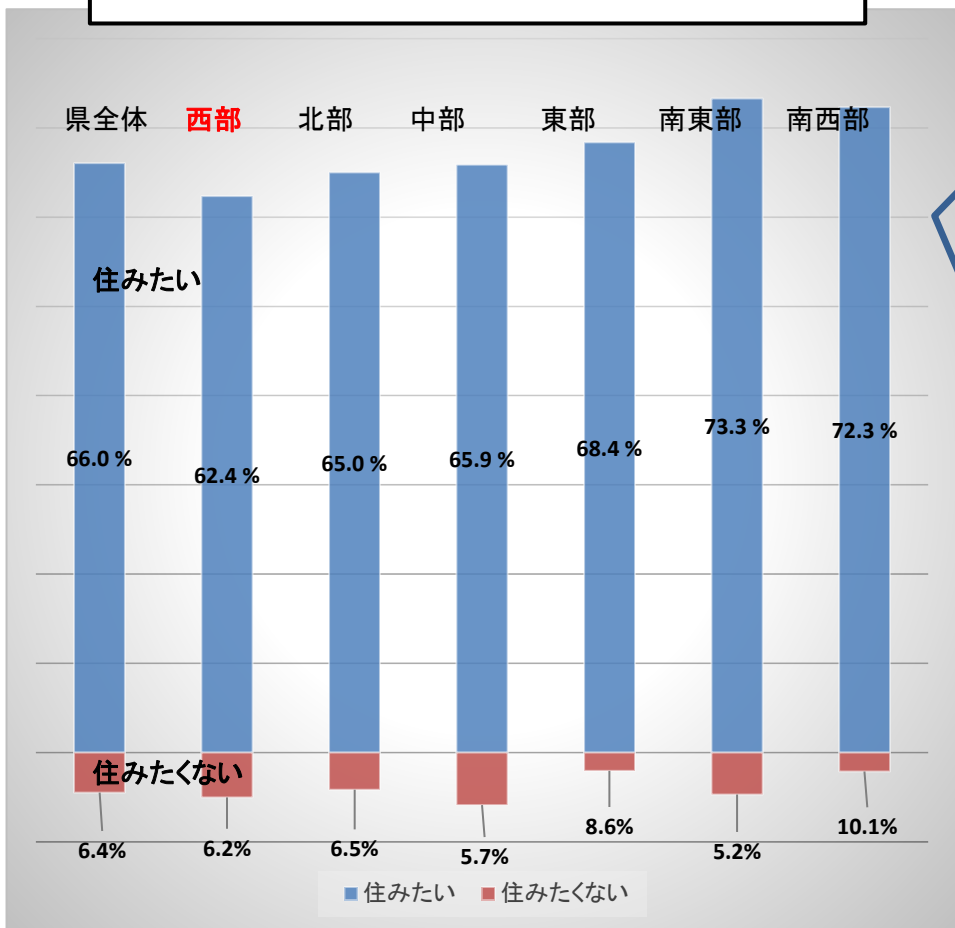
- ・奈良県の住みやすさの評価は、西和7町では71.3%と最も高く、県内の他地域よりも住みやすいと感じている人が多い。

3. 奈良県の住みやすさの評価

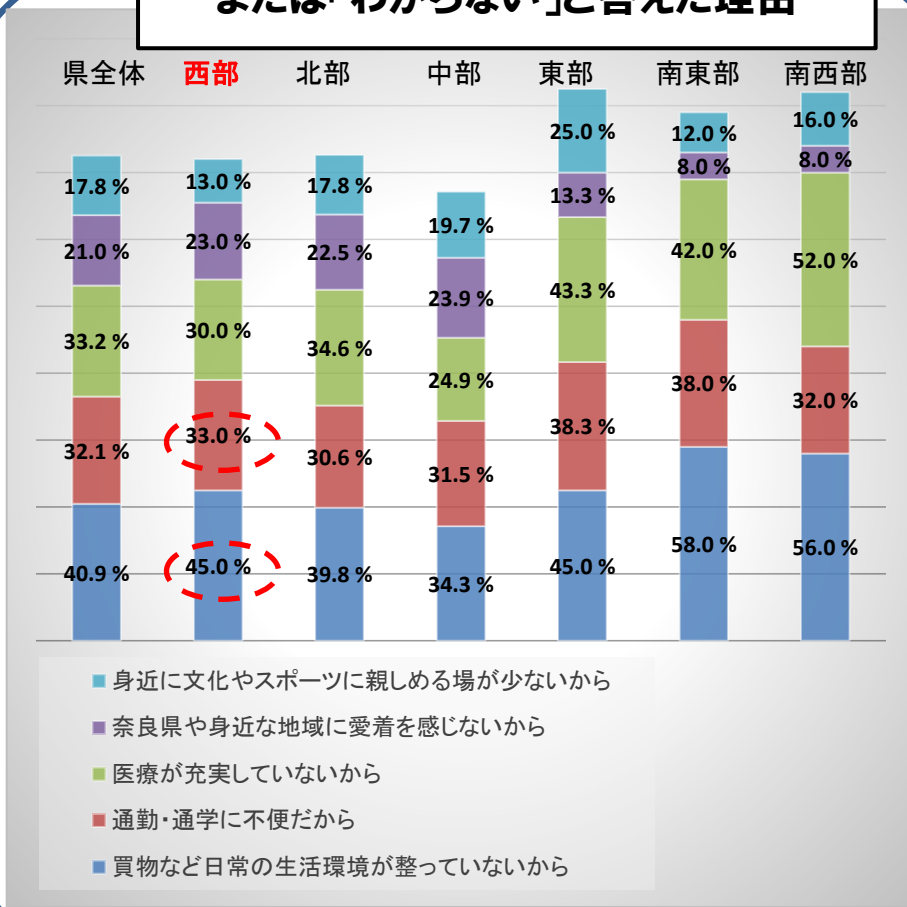


・ 将来の奈良県での定住意向は、西和7町では62.4%であるが、県内の他地域と比べると相対的に低く、日常生活や通勤・通学に不便を感じていることが主な理由である。

4. 将来の奈良県での定住意向

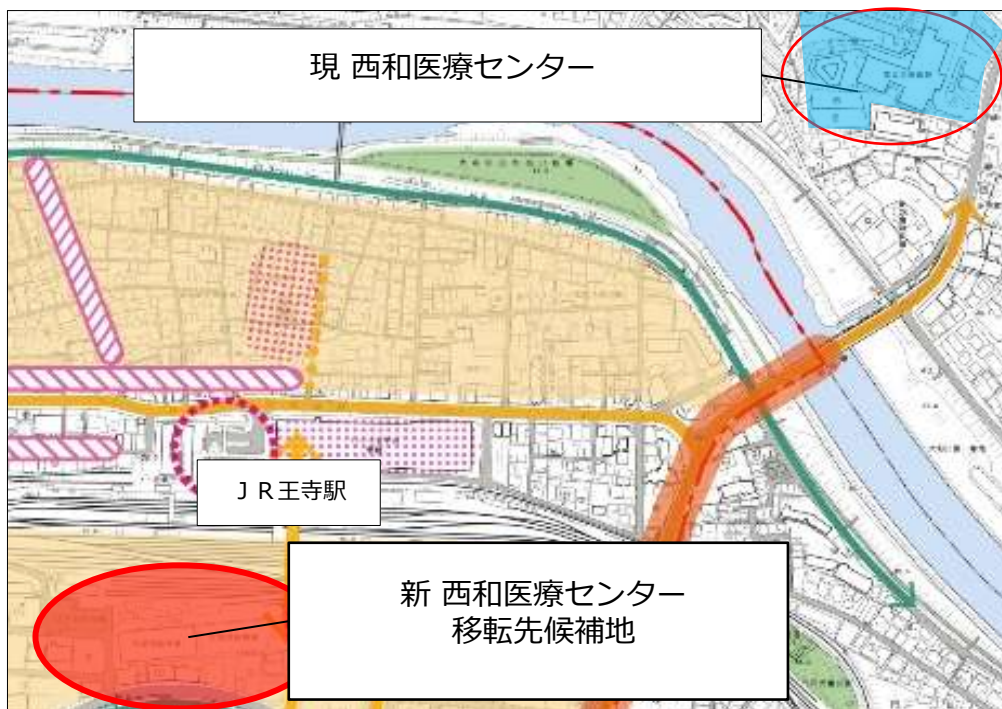


将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由



7. 西和7町における県の取り組み

西和医療センターの現地での再整備について、病院機能が停止したり大幅な制限が必要になるため、**移転も視野に入れた検討**を行っています。



(図面出典:王寺町地形図を加工)



現西和医療センター

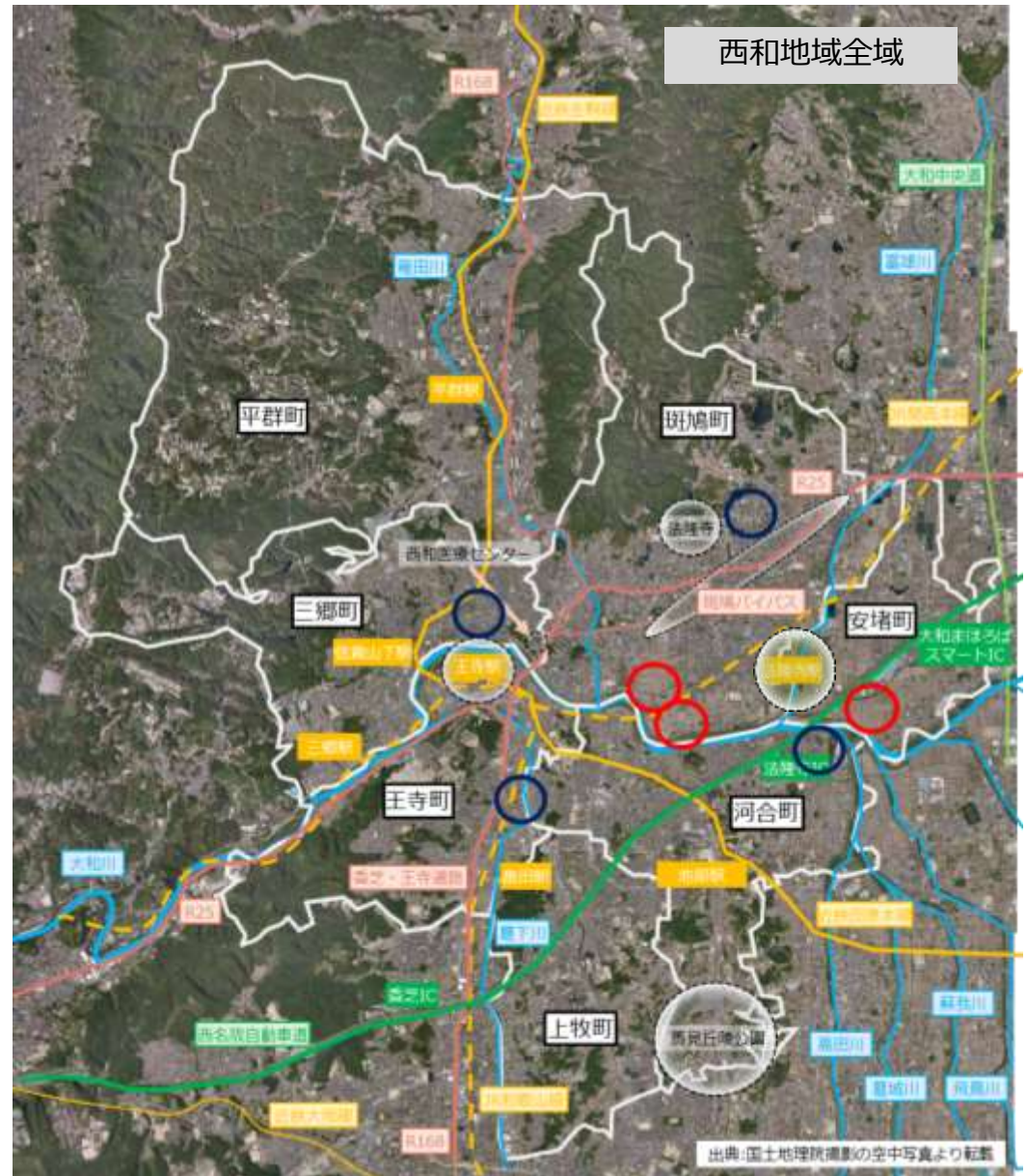
西和7町地域 全域

【西和7町】

平群町 三郷町 斑鳩町
安堵町 上牧町 王寺町
河合町

【凡例】

- 近鉄線
- - JR線
- 道路（自動車専用道路）
- 道路（国道）
- 道路（県道）
- 直轄遊水地
- 奈良県平成緊急内水対策地区



三郷町 上牧町 王寺町 河合町 周辺区域

西和医療センター



王寺駅周辺



香芝・王寺道路



内水対策事業 (イメージ)



馬見丘陵公園



出典:国土地理院撮影の空中写真より転載

- 【凡例】
- 近鉄線
 - - - JR線
 - 道路 (自動車専用道路)
 - 道路 (国道)
 - 道路 (県道)
 - 直轄遊水地
 - 奈良県平成緊急内水対策地区

平群町 斑鳩町 安堵町 周辺区域

特定農業振興ゾーン (イメージ)



内水対策事業 (イメージ)



直轄遊水地 (イメージ)



注) 上面利用については調整中

- 【凡例】
- 近鉄線
 - - JR線
 - 道路 (自動車専用道路)
 - 道路 (国道)
 - 道路 (県道)
 - 直轄遊水地
 - 奈良県平成緊急内水対策地区



出典: 国土地理院撮影の空中写真より転載

法隆寺及びJR法隆寺駅周辺
(まちづくり基本構想)



【法隆寺西院伽藍】



【JR法隆寺駅 (北口)】

R25号斑鳩バイパス三室周辺



【三室交差点(交通切替後)】